

平成 28 年度 河川レンジャー年間活動計画

平成 28 年 3 月

山崎管内河川レンジャー

東 親志（7 期生）

松方 隆（8 期生）

伏見管内河川レンジャー

居田原晃司（6 期生）

谷口 順彦（7 期生）

中村初太郎（8 期生）

目 次

1. 山崎出張所管内河川レンジャー	東 親志	1
2. 山崎出張所管内河川レンジャー	松方 隆	9
3. 伏見出張所管内河川レンジャー	居田原 晃司	16
4. 伏見出張所管内河川レンジャー	谷口 順彦	26
5. 伏見出張所管内河川レンジャー	中村 初太郎	39

平成 28 年度 河川レンジャー年間活動計画

山崎出張所管内河川レンジャー 東 親志

1. 活動の目的

【現状・問題点】

- ・桂川下流域周辺の長岡京市、大山崎町地域の方には、桂川が身近な河川に感じられていないと思われる。
- ・桂川で実施される治水・防災の為の緊急対策工事について、内容や工事実施時期などが伝わっていないと思われる。
- ・淀川河川公園の整備・管理運営について、内容などが伝わっていないと思われる。

以上の現状・問題点を踏まえ、活動の目的は以下のとおりである。

桂川周辺地域の方と一緒に、身近な豊かな河川環境の現状を把握するとともに、桂川における治水・防災・公園などの整備計画の施策について学び、問題点や課題について考えていきながら、環境保全や防災意識を持続的に進めていただくことを活動の目的とする。

2. 活動の目標

- Step1 身近な河川の豊かな自然環境について伝える活動
 Step2 淀川河川整備計画（人と川とのつながり、治水・防災）について伝える活動
 Step3 自助・共助による防災意識を高める活動

3. 活動の概要

	活動内容	実施時期（任命期間/年次）											
		試行		1 期		2 期							
		1	2	3	4	5～RA							
Step1 地域住民の関心を高める	①桂川環境を知り・楽しむ観察会 ・ヒメボタル、カヤネズミなど動植物の自然観察を通じて桂川の豊かな自然の魅力を伝える。 ②治水・防災のための整備計画を知る勉強会 ・これまでの台風などの被害状況を把握するとともに、治水・防災のための取り組みを知る。 ③治水対策工事現場見学会 ・桂川で施工されている緊急治水対策の工事現場を見学。工事の必要性や状況を知る。 ＊以上の活動と併行して、Step2 のワークショップ参加者募集を行い、活動成果とします。				}	}	}	}	}	}	継続的に実施		
Step2 河川レンジャーと管理者が協働して取り組む	①桂川の豊かな自然環境を踏まえた、適切な治水・防災工事のためのワークショップ ・治水・防災対策工事における自然環境への配慮内容などの意見交換により自然環境保護の意識の醸成を図る。 ②桂川における被災状況(H25 台風 18 号等)などを踏まえた安全なまちづくりワークショップ ・マイ防災マップの作成により、自助・共助による防災意識の醸成を図る。 ＊環境配慮計画書やマイ防災マップを活動成果とします。								}	}	}		
Step3 地域住民から行政へ発信する仕組みを構築	①安全なまちづくり協議会 ・ワークショップから協議会へ移行。 ・地域の自主防災組織等と連携して地域の標識等の設置などを提案していく。 ＊まちづくり協議会の設置や自治体への標識等設置の提案書を活動成果とします。											}	

4. 平成 28 年度活動内容

平成 28 年度の活動一覧

活動分野	活動名
■河川的环境保全を図る活動 ・河川環境保全・再生の普及・啓発・学習・住民参加の促進 ・河川環境のモニタリング (自然観察)	桂川の豊かな自然環境を知ろう
■河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動 ・淀川水系河川整備計画などの把握	桂川における河川整備計画について
	桂川における治水・防災対策について

■活動を実施していく上での課題

・河川整備計画に関する情報の入手

最新の桂川緊急治水対策工事の内容（工事内容、施工場所、施工時期など）、今後の工事計画などの情報の入手。

・活動への参加促進

活動のPR不足で一般参加者を多く集められなかった。

【要検討】：企画した活動への地域住民の参加を促す方法

桂川（淀川河川公園、桂川河川敷公園）の認知度、身近に感じられるか？、魅力はあるか？

・活動場所の課題

大山崎地区の淀川河川公園には、一部民地が存在するため、自然観察などで立ち入る際には、事前に許可が必要である。

長岡京市中央生涯学習センターは、利用者が多く満室になるため、予約は、早期に行う必要がある。

■課題に対する改善点

・河川整備計画に関する情報の入手

最新の桂川緊急治水対策工事など必要な情報を整理し、淀川河川事務所から提供いただく。

・活動への参加促進

活動PR：長岡京市など周辺自治体の広報誌へ掲載や公共施設への案内配布。

淀川河川公園利用者、長岡京市中央生涯学習センター、自然環境保全や清掃活動などを実施しているNPOなどへの活動案内の配布。

・活動場所の課題

淀川河川公園内や周辺の民地への立ち入りする活動は実施しない。

長岡京市中央生涯学習センターの予約システムを活用し、早期の会場予約に努める。

4. 1 桂川の豊かな自然環境を知ろう

(1) 活動目的

ヒメボタルやカヤネズミなどが生息する桂川の自然環境を把握し、現状の問題点と課題について考え、桂川を知っていただく。

【内容】

- ・京都府レッドデータブックで要注目種に選定されている陸生のホタルの「ヒメボタル」が見られる桂川右岸に広がる河畔林の生息環境を把握する。
- ・これまでの生息環境調査結果などを踏まえ、生態や自然特性について学ぶとともに、現状の問題点や課題などについて考え、「ヒメボタル」や「カヤネズミ」など重要な生物の保全のための方策を検討する。
- ・宇治川、木津川、小泉川などが合流する変化に富んだ豊かな自然環境について把握する。

【河川レンジャーとしての役割】

- ・地域住民が河川と係わる機会を拡大させる。
- ・地域住民との意見交換を通じて河川との関わりを定着させる。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 8 年	4月	
	5月	■桂川の豊かな自然環境を知ろう ヒメボタルやカヤネズミの棲む桂川ってどんなところ？ (現地：淀川河川公園大山崎地区)
	6月	■桂川の豊かな自然環境を知ろう ヒメボタルやカヤネズミの棲む桂川ってどんなところ？ (現地：淀川河川公園大山崎地区)
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
平成 2 9 年	1月	
	2月	■桂川の豊かな自然環境を知ろう ヒメボタルやカヤネズミの生息環境を知る (現地：淀川河川公園大山崎地区)
	3月	

(2) 連携等

- 団体との共催・他団体の活動（行事）への出展等
- 団体名（ ）

(3) 参加対象者・定員

- 参加対象：京都市伏見区、長岡京市、大山崎町など桂川周辺地域住民
団体名（ ）
- 定員：30名

(4) 実施内容

ヒメボタルの生息地は、大山崎町（一部京都市伏見区）の桂川右岸高水敷及び小泉川にあり、毎年5月中旬～6月上旬に発生し、1～2万の個体がみられ西日本最大の生息地と思われる。

活動は、本生息地において、生息する場所の自然環境を紹介しながら、問題点、課題などについて考え、保全のための方策について考えていく。

(5) 実施日

■第1回桂川の豊かな自然環境を知ろう

ーヒメボタルやカヤネズミの棲む桂川ってどんなところ？ー
5月中旬（ヒメボタルの発生時期の昼間に実施）

■第2回桂川の豊かな自然環境を知ろう

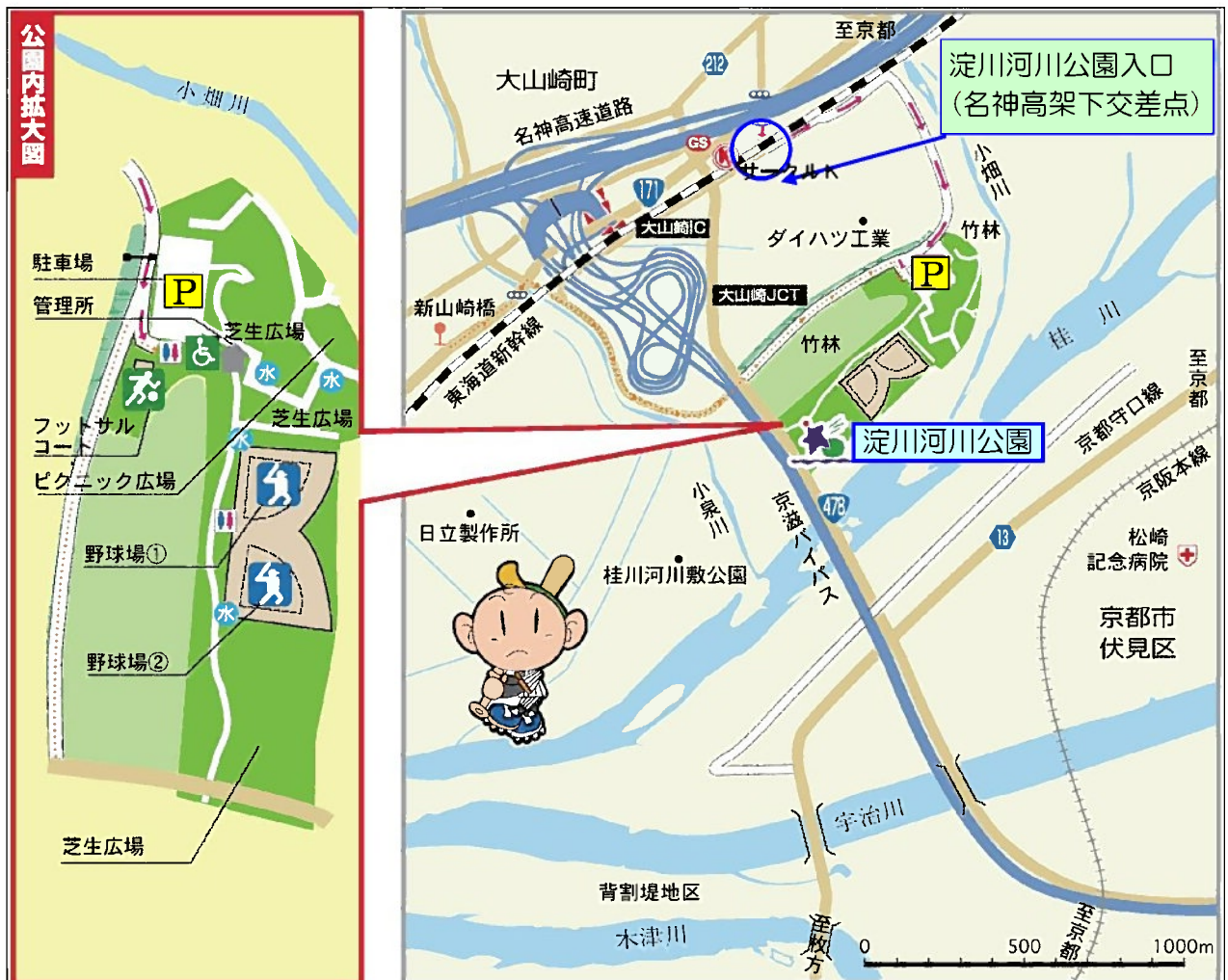
ーヒメボタルやカヤネズミの棲む桂川ってどんなところ？ー
6月中旬（桂川に流入する小畑川、小泉川での生き物調査）

■第3回桂川の豊かな自然環境を知ろう

ーヒメボタルやカヤネズミの生息環境を知るー
2月下旬
毎年、実施される「桂川クリーン大作戦」後に、飛び入り参加も含め実施。

(6) 実施場所

淀川河川公園（大山崎地区：京都府乙訓郡大山崎町）および桂川河川敷公園



(7) 安全対策

「安全管理ハンドブック」（CONE自然体験活動推進協議会編）などを参考に以下の対策を講じる。

【活動前】事故が起こらないようにする取り組み

→十分な現地踏査の実施、気象情報の把握、服装・持ち物（飲料水など）の指導
事故が起こった時を想定した取り組み
→緊急時の対応の確認（救急病院、連絡先）、救急用具等の準備、保険の加入

【活動時】事故が起こらないようにする取り組み

→危険な箇所・行動・動植物の指導、気象状況の把握（気象庁：高解像度降水ナウキャストなど活用）、人員点呼、救急用品の携行
事故が起こった時の迅速・的確な対応
→事故者の救護、負傷者への対応、救助者の安全確保

【事後後】事後が起こった後の迅速・的確な対応

→解散前に参加者に異常がないか確認、負傷者への誠意を持った対応、
事故報告書作成、保険の手続き

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

■第1回、第2回、第3回ヒメボタルの棲む桂川とは

受付、救急：3名（現地案内を兼任）

現地案内：3名（リーダー説明者：1名、誘導、人員把握、危険防止、記録：2名）計3名
なお、申し込み参加者数によりスタッフの人数は変更あり

【河川レンジャーとしての役割】

地域住民へ桂川の自然環境に興味を持っていただき、環境保全などの意識を向上させるとともに、河川レンジャー活動の理解を図る。

準備：参加者の募集（広報掲載、行政機関等PR）、説明資料作成、現地踏査
当日：現地準備、現地説明・案内、後片付け

(9) 広報・募集方法

- ・長岡京市広報誌、大山崎町広報誌などに掲載する。
- ・長岡京市生涯学習センターなどの公共施設に掲示する。
- ・阪急大山崎駅および西山天王山駅、JR山崎駅および長岡京駅などで掲示する。
- ・淀川河川公園（大山崎地区）、桂川河川敷公園利用者への活動チラシの配布。

(10) 必要支援内容

- ・河川レンジャー事務局
動植物の専門家の紹介：現地で見られる動植物の専門的な解説を行う。
活動案内パンフレットおよび現地配布資料の印刷
必要物品貸与（救急セット、フリーマイク、河川レンジャーのぼりなど）
傷害保険の加入手続き
- ・周辺自治体
広報支援：広報誌への掲載、役場や公共施設への活動案内パンフレットの配布など

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・各活動の計画準備（現地踏査、地元自治体やNPO等への協力依頼や調整など）運営を行う。
- ・広報活動、活動報告書の作成など。

(12) その他

4. 2 桂川における河川整備計画および治水・防災対策について

(1) 活動目的

桂川で実施されている治水・防災のための整備計画や河川公園整備・管理運営の内容を伝え、理解・協力を得る。

【内容】

- ・淀川河川整備計画に基づき桂川で実施されている内容について学び、意見交換を通じて理解・協力を得る。
- ・野球、バーベキューなどで多くの人の利用がある淀川河川公園（大山崎地区）の整備・管理運営について学び、問題点や課題などについて考え、身近な河川を認識してもらう。
- ・桂川緊急治水対策の内容について学び、対策工事における環境配慮として、動植物の重要種などの情報交換を通じて理解・協力を得る。
- ・マイ防災マップの内容について学び、事例などを参考にしながら、地域でのマイ防災マップを作成する。

【河川レンジャーとしての役割】

- ・地域住民へわかりやすく河川整備計画などの施策を伝え、理解を深める。
- ・地域住民との意見交換を通じて河川との関わりを定着させる。
- ・マイ防災マップの作成により、自助・共助による防災意識の醸成を図る。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 8 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	■桂川における河川整備計画および治水・防災対策について (長岡京市中央生涯学習センター)
	10月	
	11月	■桂川における河川整備計画および治水・防災対策について (現地：淀川河川公園大山崎地区)
	12月	
平成 2 9 年	1月	■桂川における河川整備計画および治水・防災対策について (長岡京市中央生涯学習センター)
	2月	
	3月	

(2) 連携等

- 団体との共催・他団体の活動（行事）への出展等
- 団体名（ ）

(3) 参加対象者・定員

- 参加対象：京都市伏見区、長岡京市、大山崎町など桂川周辺地域住民
団体名（ ）
- 定員：30名

(4) 実施内容

淀川河川整備計画に基づき桂川で実施されている内容や淀川河川公園（大山崎地区）の整備・管理運営および桂川緊急治水対策について学び、意見交換を通じて理解・協力を得る。

(5) 実施日

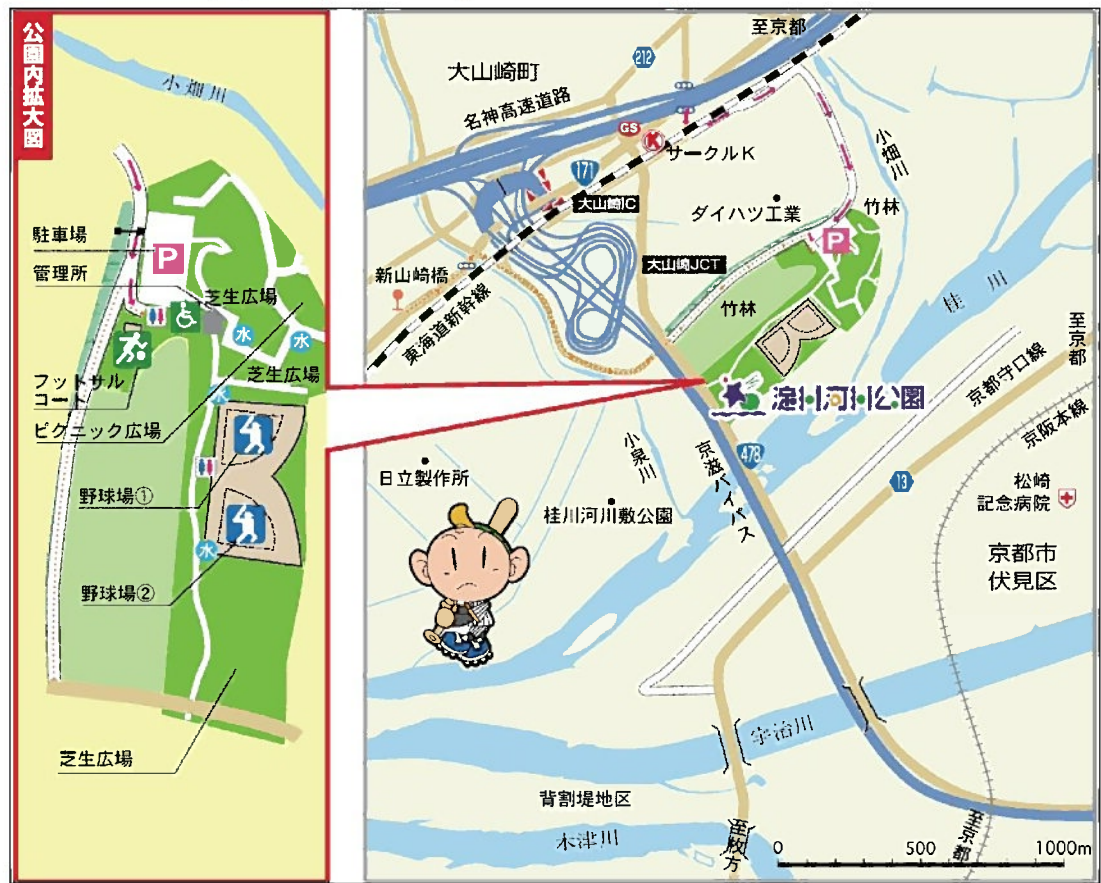
9月下旬、11月下旬および1月中旬

(6) 実施場所

- ・長岡京市中央生涯学習センター（学習室）



- ・淀川河川公園（大山崎地区：京都府乙訓郡大山崎町）



(7) 安全対策

「安全管理ハンドブック」（CONE自然体験活動推進協議会編）などを参考に以下の対策を講じる。

【活動前】事故が起こらないようにする取り組み

→十分な現地踏査の実施、気象情報の把握、服装・持ち物（飲料水など）の指導
事故が起こった時を想定した取り組み
→緊急時の対応の確認（救急病院、連絡先）、救急用具等の準備、保険の加入

【活動時】事故が起こらないようにする取り組み

→危険な箇所・行動・動植物の指導、気象状況の把握（気象庁：高解像度降水ナウキャストなど活用）、人員点呼、救急用品の携行
事故が起こった時の迅速・的確な対応
→事故者の救護、負傷者への対応、救助者の安全確保

【事後後】事後が起こった後の迅速・的確な対応

→解散前に参加者に異常がないか確認、負傷者への誠意を持った対応、
事故報告書作成、保険の手続き

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

■第1回、第2回、第3回桂川における河川整備計画などについて

受付：2名

現地案内：2名（リーダー、説明者：1名、人員把握、記録など：1名） 計2名

【河川レンジャーとしての役割】

地域住民へ桂川で実施されている河川整備計画を理解いただき、河川との関わりを向上させるとともに、河川レンジャー活動の理解を図る。

準備：参加者の募集（広報掲載、行政機関等PR）、説明資料作成

当日：現地準備、説明、後片付け

(9) 広報・募集方法

- ・長岡京市広報誌、大山崎町広報誌などに掲載する。
- ・長岡京市生涯学習センターなどの公共施設に掲示する。
- ・阪急大山崎駅および西山天王山駅、JR山崎駅および長岡京駅などで掲示する。
- ・淀川河川公園（大山崎地区）、桂川河川敷公園利用者への活動チラシの配布。

(10) 必要支援内容

- ・淀川河川事務所（山崎出張所）
淀川河川整備計画や桂川緊急治水対策など説明者の紹介
：淀川河川整備計画や公園整備、桂川緊急治水対策などの解説を行う。
- ・河川レンジャー事務局
活動案内パンフレットおよび配布資料の印刷
傷害保険の加入手続き
- ・周辺自治体
広報支援：広報誌への掲載、役場や公共施設への活動案内パンフレットの配布など

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・各活動の計画準備（現地踏査、地元自治体やNPO等への協力依頼や調整など）運営を行う。
- ・広報活動、活動報告書の作成など。

(12) その他

平成 28 年度 河川レンジャー年間活動計画

山崎出張所管内河川レンジャー 松方 隆

1. 活動の目的

小泉川は、天王山の近くの山に源を発し、全長 7 km、集水域 10 km の小さな川である。山中から、田畑をへて町中を流れていることで、水はきれいで水生生物も多く、6 月には、ホタルも飛び交う。下流から上流まで、魚道や自然に近い護岸があり、魚が遡ることが自然にできる。身近な川でありながら、この川が田畑へ水を送る大切な役割を果たしていることや、台風などによる洪水の危険を防ぐために、河川工事がくり返しおこなわれてきたこと、また、親水性を生かした河川工事や、自然を生かした川づくりなど、工事のやりかたが変わってきていることが地域の住民に知られていない面もある。

まず、岸辺を歩き、川に入り親しむ中で、自然の豊かさと川の楽しさを知るとともに、親水性に目をむけた河川整備を知り、利水、治水などの川の大切さに目を向けてもらう場とする。さらに、下流でつながる桂川にも目を向け、生き物の多様性や自然環境などを知らせていきたい。

「いい町は、いい川を持つ」という言葉がある。地域の人が、身近な自然である川を通じてお互いにつながりを持ち、うるおいある豊かな生活をつくっていけるように、河川レンジャーの立場をいかし、行政と協力しながら、住民が主体的に参加できる活動を進めていきたい。

2. 活動の目標

Step1 子どもたちや地域住民に川に親しみ、川を楽しむ機会をつくり、川への関心を高めてもらう。

Step2 行政や地域団体などと連携して取り組みことで、活動内容や範囲を広げ、住民自らが主体的に活動する機会をつくる。

Step3 行政、地域団体などと連携して取り組むことで、環境保全や防災・治水などについて、積極的に意見を出し合う場をつくっていく。

3. 活動の概要

	活動内容	実施時期（任命期間/年次）				
		試行		1 期		2 期
		1	2	3	4	5~RA
Step1 地域住民の関心を高める	① 小泉川の観察と環境調査（観察会） ・水辺の自然と環境を見ながら桂川まで歩く。 ・水生生物を調べ、川の水質や環境を調べる。 ・魚をとって、種類や生態を調べる。 ② 「流れる水のはたらき」（理科 5 年）と河川工事（護岸や川床）について（小学校出前授業） ③ 「川づくりと河川環境」（市民向け学習会） 河川整備の内容を、自然環境との関係で考える。					
Step2 河川レンジャーと管理者が協働して取り組む	・行政、地域団体などと連携して取り組むことで、活動内容や範囲を広げ、主体的に活動する機会をつくる。防災施設や他自然型工法の見学					
Step3 地域住民から行政へ発信する仕組みを構築	・行政、地域団体などと連携して取り組む中で、環境保全や防災・治水などについて、積極的に意見を出し合う場をつくっていく。					

4. 平成 28 年度活動内容

平成 28 年度の活動一覧

活動分野	活動名
河川の環境保全を図る活動	桂川の合流地点まで歩きながら、自然と環境を調べよう。 (観察会)
	小泉川の水生生物を調べ、川の水質や環境を知ろう。 (観察会)
	小泉川の魚をとって、種類や生態を調べよう。 (観察会)
河川の環境保全を図る活動	「流れる水のはたらき」と河川工事（護岸や川床）について (小学校出前授業)
河川の環境保全を図る活動	「川づくりと河川環境」 (市民向け学習会)

■活動を実施していく上での課題

- ①「小泉川の自然と環境」観察会
 - ・安全に、スムーズに観察を進めていくためのスタッフの確保
 - ・採取した生物の同定など、専門家の確保
- ②「川とわたしたちの暮らし」市民向け学習会
 - ・幅広い参加者の確保

■課題に対する改善点

- ①「小泉川の自然と環境」観察会
 - ・地域の自治会や自然保護団体への協力依頼
 - ・水生生物専門家への講師依頼
- ②「川とわたしたちの暮らし」市民向け学習会
 - ・住民に興味関心を持ってもらうように、内容を工夫する。
 - ・環境フェアや市の行事などで広範囲に企画を知らせるとともに、個別に参加要請をして、参加者を確実に確かむようにする。

4. 1 小泉川中流から桂川への合流地点まで歩きながら、自然や環境を調べよう。

(1) 活動目的

小泉川を桂川の合流地点まで川に沿って歩き、小泉川の自然や環境や環境を調べる。

活動実施スケジュール

		実 施
	4 月	現地地下見 小泉川から桂川へ● 小泉川観察ハイキング
	5 月	活動のまとめ 報告

(2) 連携等

乙訓の自然を守る会

(3) 参加対象者・定員

小学生以上 小学生は保護者同伴 20 名

(4) 実施内容

- ・小泉川の中流から桂川の合流地点まで、自然観察をしながら、護岸の様子、構造物を確かめながら歩く。

9:00 集合 趣旨説明、諸注意

9:20 水質調査 金ヶ原橋

9:30 観察開始 下流に向けて歩く。

11:30 桂川との合流地点着

12:00 まとめ 解散

(5) 実施日

4月23日(土) 9時~12時

(6) 実施場所

<集合場所> 小泉川 金ヶ原橋 上流



<解散場所> 小泉川下流 桂川との合流地点 桂川河川敷公園

(7) 安全対策

下見により、危険な場所をさけ、安全な場所を歩く。

安全対策のスタッフを置き、常時、活動の様子を見守る。

長袖、帽子、水分補給などの虫や暑さ対策をする。

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ 2名 (受付 運営補助、参加者への安全対策)

(9) 広報・募集方法

チラシの作成・配布 長岡京市広報 淀川河川レンジャーのホームページより発信

(10) 必要支援内容

・募集チラシ、資料の印刷

・救急セット、バインダー、レンジャー旗の借用 水質調査用パックテスト準備

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

募集チラシ作製、当日の運営、まとめ

4. 2 小泉川の水生生物を調べ、川の水質や環境を知ろう。

(1) 活動目的

実際に川に入り、生物を採取することで、川の生態を知り、小泉川の水のきれいさ、自然の豊かさを知る。

活動実施スケジュール

		実施
平成28年	4月	企画掲載の市広報依頼
	5月	現地下見 小泉川 近隣小学校へのチラシ配布依頼
	6月	●小泉川の水生生物と水質調査 6月下旬(日)
	7月	活動のまとめ 報告

- (2) 連携等
 - 乙訓の自然を守る会
- (3) 参加対象者・定員
 - 小学生と保護者（保護者同伴で10組）

- (4) 実施内容
 - ・水生生物を採取して、生物の分類、名前の確認をする。
 - ・水質調査をする。
 - ・自然にやさしい川づくりについて、護岸や魚道などについて話をする。

9:00 集合 趣旨説明 現地説明、諸注意
 9:20 水生生物の採取
 11:20 まとめ（採取した生物の分類 確認）
 12:00 解散 後始末

- (5) 実施日
 - 6月19日（日）9時～12時

- (6) 実施場所
 - 小泉川 金ヶ原橋 上流



- (7) 安全対策
 - 下見により、深みや危険な場所をさけ、安全な場所を選ぶ。
 - 安全対策のスタッフを置き、常時、活動の様子を見守る。
 - 長袖、帽子、水分補給などの虫や暑さ対策をする。

- (8) 協力スタッフ等の人数とその役割
 - 協力スタッフ 2名（受付 運営補助、参加者への安全対策）

- (9) 広報・募集方法
 - チラシの作成・配布 長岡京市広報 淀川河川レンジャーのホームページより発信

- (10) 必要支援内容
 - ・募集チラシ、資料の印刷
 - ・救急セット、バインダー、レンジャー旗の借用 水質調査用パックテスト準備

- (11) 活動における河川レンジャーの活動内容
 - 募集チラシ作製、当日の運営、まとめ

4. 3 小泉川の魚をとって、種類や生態を調べよう。

- (1) 活動目的
 - 実際に川に入り、川の状態に沿って、魚の採り方を知り、種類や生態を知る。

活動実施スケジュール

		実 施	
	5月	企画掲載の市広報依頼	近隣小学校へのチラシ配布依頼
	6月	現地下見 小泉川	
	7月	●小泉川の魚調査 7月中旬（日）	

	8月	活動のまとめ 報告
--	----	-----------

(2) 連携等

乙訓の自然を守る会

(3) 参加対象者・定員

小学生と保護者（保護者同伴で10組）

(4) 実施内容

- ・魚をとり、川遊びを体験する。
- ・水質調査をする。
- ・自然にやさしい川づくりについて、護岸や魚道などについて話をする。

9:10 集合 趣旨説明 現地説明、諸注意

9:30魚とり 水生生物の採取

11:20 まとめ（採取した生物の分類 確認）

12:00 解散 後始末

(5) 実施日

7月10日（日）9時～12時

(6) 実施場所

小泉川 小倉橋 上流
 阪急西山天王山駅徒歩5分



(7) 安全対策

下見により、深みや危険な場所をさけ、安全な場所を選ぶ。
 安全対策のスタッフを置き、常時、活動の様子を見守る。
 長袖、帽子、水分補給などの虫や暑さ対策をする。

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ 2名（受付 運営補助、参加者への安全対策）

(9) 広報・募集方法

チラシの作成・配布 長岡京市広報 澁川河川レンジャーのホームページより発信

(10) 必要支援内容

- ・募集チラシ、資料の印刷
- ・救急セット、バインダー、レンジャー旗の借用 水質調査用パックテスト準備
- ・講師派遣

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

募集チラシ作製、当日の運営、まとめ

4. 4 小学校での出前授業

流れる水のはたらきと 河川工事（護岸や川床）について

(1) 活動目的

小学校の理科学習で、5年生は「流れる水のはたらき」の単元を学習する。小さな川でも、台風などで雨が短時間に大量に降ると、洪水が起こりやすい。災害を防ぐための河川工事について、そのしくみや工夫を知る。また、最近は自然を考えた川づくりがすすんでいることを学ぶ。

活動実施スケジュール

		実施
平	4月	

成 2 7 年	5月	学校 土木事務所への申し入れ
	6月	教材作り 現地調査
	7月	
	8月	
	9月	↓
	10月	●小学校5年 学校への出前授業 「川の流れとはたらき」
	11月	活動のまとめ 報告

(2) 連携等

京都府乙訓土木事務所

(3) 参加対象者・定員

長岡京小 小学校5年生 教員

(4) 実施内容

理科学習の「川とわたしたちの生活」—洪水を防ぐ工夫や、自然を考えた川づくりについて、近くの川、小泉川や桂川に即して学習する。

河川工事の内容や防災対策を、河川工事の担当者の方に説明していただく。

(5) 実施日

10月中旬

(6) 実施場所

学校 教室

(7) 安全対策

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

(9) 広報・募集方法

- ・小学校への依頼

(10) 必要支援内容

- ・資料の印刷
- ・乙訓土木事務所の担当の方から、河川工事の内容ややり方の移り変わりなど説明をしていただく

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

当日の運営、まとめ

4. 5 「川とわたしたちの生活」市民向け学習会

(1) 活動目的

人々は、昔から川と深い関わりをもって暮らしてきた。田畑への水の供給の用水路が小泉川から縦横に作られている。最近では、川の生物や岸辺の植物に影響が出ないようにした堤防や魚の通り道を工夫したものが作られるとともに、水辺に親しむ環境にもなっている。河川整備についても住民の意見を聞くとともに、ともに川の大切さを考える場とする。

あわせて、桂川や淀川の魅力や生き物についても、知らせていきたい。

		実 施
平 成 2 7 年	4月	
	5月	土木事務所への申し入れ
	6月	教材作り 現地調査

7月	
8月	
9月	
10月	
11月	●「川とわたしたちの生活」市民向け学習会
12月	活動のまとめ 報告

(2) 連携等

京都府乙訓土木事務所 乙訓の自然を守る会

(3) 参加対象者・定員

一般 30名

(4) 実施内容

河川工事の内容と、河川法改正による工事のやり方の変遷について学習するとともに、桂川や淀川について、その魅力や生き物について、知らせる場としたい。

13時半 開会 16時 閉会

(5) 実施日

11月中旬

(6) 実施場所

長岡京市中央公民館

(7) 安全対策

特になし

(8) 広報・募集方法

チラシの作成・配布 長岡京市広報 大山崎町広報
淀川河川レンジャーのホームページより発信

(9) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力スタッフ2名
会場作り 受付等

(10) 必要支援内容

- ・資料の印刷
- ・淀川の生き物などの宣伝物

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

募集チラシ作製、当日の運営、まとめ

4. 平成 28 年度活動内容

平成 28 年度の活動一覧

活動分野	活動名
河川の環境保全を図る活動	東高瀬川クリーンアップの参加、連携（年 2 回）
	青少年によるクリーン宇治運動の参加、連携（年 2 回）
	川の生きものガザガサ探検隊 in 山科川（安全講習会）
	川遊び安全マップ作成に向けた宇治川各支流の現地川歩きでの安全性調査

■活動を実施していく上での課題

- ・活動目的としている宇治川川遊び安全マップ作成に向けた現地川歩き安全性調査を実施しているが、まだワーキンググループ設立まで確立できていない。

■課題に対する改善点

- ・ワーキンググループ設立に向けて、現地川歩き安全性調査の年間日程を確定し、チラシ等で現地調査の参加者を募っていく。

4. 1 東高瀬川クリーンアップの参加、連携

(1) 活動目的

毎年2回(5月中旬、10月中旬)京都市伏見区内で開催されている「東高瀬川クリーンアップ」に共催団体である東高瀬川を美しくする会や参加団体であるらくなん進都整備推進協議会との連携を深めながら企画、運営及び参加し、清掃活動によって川が美しくなる喜びを共感し、川を生息域とする生きものにとってよりよい環境づくりを行い、住民に対して川への関心を高めてもらう。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 8 年	4月	参加団体、河川事務所、レンジャー事務局との連絡、調整(3月～)
	5月	清掃活動実施(1回目)
	6月	
	7月	
	8月	参加団体、河川事務所、レンジャー事務局との連絡、調整
	9月	参加団体、河川事務所、レンジャー事務局との連絡、調整
	10月	清掃活動実施(2回目)
	11月	
	12月	
平成 2 9 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

○共催団体

東高瀬川を美しくする会、京都市都市づくり推進課、らくなん進都整備協議会
伏見区地域の女性会

(3) 参加対象者・定員

○参加対象：東高瀬川近隣在住または東高瀬川に関心がある高校生以上の団体及び個人
(中学生以下は大人の同伴が必要)

○定員：特になし

(4) 実施内容

東高瀬川の両岸の清掃活動

(第2回目は清掃活動に加えて松本酒造沿いの堤防への菜の花の種まき)

(5) 実施日

5月中旬と10月中旬（連携団体との調整により実施2～3ヶ月前に決定）

(6) 実施場所

下図ピンク色で示した東高瀬川兩岸



(7) 安全対策

- ・川の中の清掃活動は危険が伴うため、参加者へは事前に川の中の清掃活動は実施しないことをチラシで伝える。
- ・事前に活動エリアを下見し、現地の安全確認を行う。
- ・参加者へは当日注意点を説明し、安全に十分注意しながら活動を行う。
- ・万が一に備え、救急道具を常備する。

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

東高瀬川を美しくする会	松本様	企画及び当日の活動の指示
京都市都市づくり推進課	中村様	らくなん進都整備協議会会員への連絡

(9) 広報・募集方法

- ・チラシを作成し、東高瀬川を美しくする会担当者及びらくなん進都整備協議会会員へ配布
- ・伏見区役所でチラシを掲示して頂く。

(10) 必要支援内容

- ・ゴミ袋、火バサミ、軍手、ゴミ集積場所の看板
- ・集積したゴミの収集
- ・対象地域の除草作業

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・実施に向けての各団体担当者への調整
- ・事前の現地安全確認
- ・当日の安全確認及び緊急時の連絡係

(12) その他

4. 2 青少年によるクリーン宇治運動の参加、連携

(1) 活動目的

毎年2回(11月下旬、3月上旬)宇治市内で開催されている「青少年によるクリーン宇治運動」に参加し、今後河川レンジャーとして連携ができないか模索し、清掃活動によって生きものにとって棲みよい川づくりを目指し、参加者の川への関心を高めてもらう。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 8 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	実行委員会への参加
	10月	
	11月	清掃活動実施(1回目)
	12月	
平成 2 9 年	1月	
	2月	
	3月	清掃活動実施(2回目)

(2) 連携等

○主催団体

青少年によるクリーン宇治運動実行委員会、宇治市

(3) 参加対象者・定員

○参加対象：宇治市在住の幼児・小・中学生及び保護者

○定員：特になし

(4) 実施内容

青少年によるクリーン宇治運動実行委員会主催の清掃活動
(宇治橋から白虹橋までの宇治川兩岸および大吉山周辺)

(5) 実施日

11月第4日曜日と平成29年3月第2日曜日（ともに予定）

(6) 実施場所

京都府立宇治公園（塔の島）周辺地域

（宇治橋から白虹橋までの宇治川兩岸および大吉山周辺）



(7) 安全対策

- ・子どもが中心の清掃活動のため危険がない範囲で清掃エリアを設定する。

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

青少年によるクリーン宇治運動実行委員会 企画及び当日の活動の指示
宇治市 企画及び当日清掃活動に必要な備品の提供

(9) 広報・募集方法

主催者である宇治市HP及びチラシ

(10) 必要支援内容

今のところ特になし

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・清掃活動への参加
- ・青少年によるクリーン宇治運動実行委員会との連携

(12) その他

4. 3 川の生きものガサガサ探検隊

(1) 活動目的

宇治川に流れる支流の中に子どもが入っても危険が少なく自然とふれあえる川がいくつかあります。そこで親子で川遊び、生きもの採集を体験してもらい、川でどんな生きものが生息しているか、川で遊ぶときの注意点も合わせて学んでもらう。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 8 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	イベント広報
	8月	イベント実施（山科川）
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
平成 2 9 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

- 共催団体 NPO 法人子どもと川とまちのフォーラム（山科川のみ）

(3) 参加対象者・定員

- 参加対象：幼児・小学生とその保護者
- 定員：各回10組

(4) 実施内容

山科川で水に生息する生き物採集と観察
見守りスタッフの安全講習

(5) 実施日

8月ごろ（山科川）（予定）

(6) 実施場所

- ・山科川（勸修寺公園沿いの山科川と旧安祥寺川合流点）



(7) 安全対策

- ・事前下見の実施により危険場所の確認、活動範囲の確定。
- ・活動時に活動範囲をロープで明示する。
- ・スタッフに対し安全講習会を実施する。

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

スタッフ 2名（活動時の見守り）（保護者にも見守りを願います）

(9) 広報・募集方法

チラシ、河川レンジャーHPにより募集（多数の場合は抽選）

(10) 必要支援内容

たも網、水槽、エアープンプ、ライフジャケットなど生きもの採集に必要な道具

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ・当日の受付等、川での活動の指導、安全講習の指導、見守り

(12) その他

活動地域は伏見出張所管内外地域だが、NPO 法人子どもと川とまちのフォーラムから活動実施を依頼されています。

4. 4 川遊び安全マップ作成に向けた宇治川各支流の現地川歩きでの安全性調査

(1) 活動目的

宇治川支流は川に入りにくいところが多いが、よく観察すると魚が泳いでいたり、子どもが安全に遊べるような箇所も確認できる。川の大切さを子どもに学んでもらうには、実際に川に入って『川』を体験してもらうことが1番である。しかし現段階では川に入ることが可能と判断できる資料がなく、安全性が疑問視される。

そこで、宇治市内の小学生たちが将来川に入って体験活動を実施してもらうことを目標とした『宇治川川遊び安全マップ』の作成に向けて宇治川の各支流で現地川歩きを行い、安全性を調査し、記録する。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 8 年	4月	現地川歩きと記録
	5月	
	6月	現地川歩きと記録
	7月	現地川歩きと記録
	8月	
	9月	現地川歩きと記録
	10月	
	11月	
	12月	現地川歩きと記録
平成 2 9 年	1月	現地川歩きと記録
	2月	現地川歩きと記録
	3月	

(2) 連携等

(3) 参加対象者・定員

- 参加対象：宇治川川遊び安全マップ作成に興味のある大人
- 定員：5名程度

(4) 実施内容

宇治川各支流に入り、川の現状を確認しながら、子どもに対する安全性を考慮しながらビデオ記録を行う。

(5) 実施日

4月、6月、7月、9月、12月、平成29年1月、2月第3木曜日午前10時～12時ごろ

(6) 実施場所

宇治川支流（支流に近い小学校）※実施する川は下記リストから後日決定する。

- ・井 川 （小倉小、菟道第二小、神明小、伊勢田小、南小倉小）
- ・名木川 （大久保小、西大久保小）
- ・中島川 （大開小）
- ・志津川 （笠取第二小）
- ・日野川 （御蔵山小）
- ・弥陀次郎川 （岡屋小、宇治小）
- ・新田川
- ・戦 川 （三室戸小）
- ・宇治市界都市下水路 （平盛小）
- ・岡本川 （南部小）
- ・笠取川 （笠取小）
- ・堂ノ川 （木幡小）
- ・白 川 （菟道小学校）
- ・巨椋池干拓田用水路 （西小倉小、北小倉小）
- ・巨椋池干拓田2号用水路 （槇島小学校）
- ・巨椋池干拓田承水路3号 （北槇島小学校）

(7) 安全対策

- ・安全対策としてヘルメットを着用する。
- ・もしもの時のため2名以上で行動する。

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

宇治川川遊び安全マップ作成に賛同してくれる人

(9) 広報・募集方法

チラシを作成し、参加者を募集する。

(10) 必要支援内容

特になし

(11) 活動における河川レンジャーの活動内容

現地で子どもの安全性に重点を置いた川歩き及びそのビデオ記録

(12) その他

ビデオ記録は着用可能な小型ビデオカメラで撮影する。

1. 活動の目的

淀川では人間の諸活動の影響とりわけ戦後の急速な経済成長の陰で、多くの淡水魚類が絶滅危惧状態におかれてきた。しかし、近年、淀川では水質浄化の技術発展により水生生物環境の回復がもたらされている。淀川河口堰では天然海産稚アユが魚道を遡上する姿が観察されるようになったのは、その1つの事例である。このような天然アユの復活の兆しは、今後の淀川の生物環境と生物多様性の本格的復活に道につながる朗報である。そこで、私の河川レンジャー活動においては、淡水魚資源の本格的復活とそれらの保全を目指して、流域住民とともに現状把握につとめ、さらなる河川生物環境の保全と生物資源の復活を目指すという立場から課題を検討する。このような活動の第1段階として、アユをはじめとする淡水魚の生物学的、生態学的特性を知るための体験型実践活動を企画する。次に、河川の流域住民、漁民、学術研究者の参加を得て、アユを中心とする淡水魚の復活に関する総合的意見交換会を実施し、淀川の本格的復活を促進してゆくための最良の解決策の創出および提案を試みる。

2. 活動の目標

Step 1. 淡水魚(特にアユ)の生物学的特性と環境に関する実践的学習活動

- 1) アユなどの淡水魚の捕獲・釣獲を介して、それらの生態的生理的特性について体感する経験を積み上げる。
- 2) アユなどの淡水魚の餌となる底生生物、藻類、底石の付着藻類などを採取・定量し、アユなどの餌料供給と高速成長の秘密を探る。
- 3) 親子友釣り大会でアユの習性を学び、アユの生き様を体感する。また、淡水魚の小物釣りを親子で体験させ、アユやその他の淡水魚への関心を育くみ、それらの生息する河川環境に関心をもつ契機を提供する。
- 4) 産卵場の探索とアユの捕獲を試み、産卵場となる条件と場所を特定する方法を学ぶ。

Step 2. 魚類と河川の諸特性の相互作用に関する現地実習と問題整理

- 1) 現存のダム(堰)および魚道を見学し当該魚道の機能性について検証し、機能不全の魚道についてはその原因を解明する。
- 2) アユが生息する河川環境について、アユが生息する川(支流)と生息しない川(支流)の水質および底質の比較調査を実施する。
- 3) アユが産卵する瀬の条件に関して、親魚の採捕と採卵を実施する中で、優れた産卵場と劣悪な産卵場の条件について比較検討を行い、その答えを探る。
- 4) 本流を流下する孵化仔魚を本流において試験採捕し、仔稚魚期の生存の実態把握に努める。

Step 3. 問題の発掘と解決策の考案

- 1) 天然アユの遡上の現地観察と淀川大堰の魚道を有効にするための運用技術に関する意見交換を実施し、有効な方法を提案する。
- 2) 現場視察をとおして、資源の保全を視野にいれた資源の利用((捕獲)の有り方に関する意見交換と提案をおこなう。
- 3) 自然産卵場の比較観察と産卵促進のための保護水面の検討および提案、自然産卵場のない支流においては産卵場の蘇生法について提案する。
- 4) 淀川の天然アユの復活促進のための総合的提案を行う。

3. 活動の概要

	活動内容	実施時期 (任命期間/年次)				
		試行		1期		2期
		1	2	3	4	5~RA
Step1 地域住民の関心を高める (淡水魚の生物学的特性と環境に関する実践的学習活動の実施)	① アユ学のすすめ :アユを観察材料として淡水魚の特性を概説し、その生態的生理的特性について学ぶ。(伏見出張所会議室) ② 淀川大堰の遡上魚の現地観察会 :魚道におけるアユ稚魚の遡上状況を観察し、自動計数の仕組みについて見学する。 ③ アユの摂餌生態 :縄張りアユと群れアユの行動を観察する。上流の瀬の底石に付着している藻類を採取・定量し、餌生物のカロリー量を推定する。アユの高成長を支えるメカニズムに関する理解を深める。(大河原潜水橋周辺) ④ 友釣り体感会 :友釣りを通じてアユの生き様を体感する。(木津川中流域) ⑤ 産卵場の探索と親魚の成熟確認 :産卵期と産卵場の条件について学ぶ。(木津川市山城町付近の河川敷) ⑥ 宇治川の魚、釣ってみよう飼ってみよう (伏見みなと公園内)					
Step2 河川レンジャーと管理者が協働して取り組む (魚類と河川の諸特性の相互作用に関する現地実習と問題の発掘)	① 濠川下流(宇治川派流)におけるアユの復活 :生息、成長に関する条件調査 ② 淀川大堰および毛馬水門における稚アユの溯上観察 :天然アユの稚魚の魚道通過状態の実態について見学、調査する。 ③ 発電用堰堤(ダム)および魚道の見学 :魚道の実物を見学し、その仕組みに関する説明を受け、機能しない魚道についてはその原因を探る。 ④ 淀川におけるアユのふ化仔魚の採集 :ふ化仔魚の流下状況の観測と翌年のアユ稚魚の遡上予測について考える。					
Step3 地域住民から行政へ発信する仕組みの構築 (問題の特定と解決策の提案)	① 淀川大堰および毛馬水門における稚アユの遡上促進法 (大堰水門のゲート操作による稚魚遡上の促進法の考案)(フォーラム) ② 発電用堰堤(ダム)および魚道の見学 :魚道の実物を見学し、その仕組みに関する検討と効果的簡易魚道の提案(相楽発電所取水堰の見学と南山城村やまなみホールにおけるフォーラム) ③ 産卵期の親アユの保全および孵化仔魚の流下促進 :産卵期間中の禁漁区域と禁漁期間について検討し、流域住民の合意形成をめざす検討会の実施。					

:完了: :継続

4. 平成 28 年度活動一覧

活動分野	活動名
河川環境の保全に関わる活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 濠川におけるアユの復活プロジェクト：本活動の妥当性、試験放流に使用する放流用アユ種苗のコストなどについて検討する(宇治川派流)。 ② 淀川大堰および毛馬閘門における天然海産アユの遡上状況視察：魚道の遡上アユの観察と遡上数の自動計数の仕組みに関する現地見学会（連携活動）。 ③ 親子で楽しむ友釣り体験会：友釣りを通じてアユの生き様を体感する。（木津川中流） ④ オトシガワ漁またはスガケ漁の見学および産卵場適地の探索：成熟アユの産卵実態について学ぶ（連携活動）。 ⑤ 濠川(伏見みなと公園内)の魚、釣ってみよう飼ってみよう：竿と仕掛けの準備と釣りの実体験、釣った魚の飼育方法を学ぶ。 ⑥ 淀川におけるアユ再生産実態の観察：産卵場の特定およびふ化仔魚の採捕による生殖実態の調査
河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートに関わる活動	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 淀川大堰および毛馬水門における天然アユ稚魚の遡上阻害の改善法：アユ稚魚の遡上の改善法の提案（フォーラム） ⑧ 発電用堰堤(ダム)および魚道の見学：魚道の実物を見学し、その仕組みに関する検討と効果的簡易魚道の提案（南山城村やまなみホールおよび相楽発電所）（連携活動） ⑨ アユ仔魚の流下状況の観測と翌年のアユ稚魚の遡上予測に関する学習（フォーラム）（連携活動） ⑩ 淀川における天然アユの再生産の確保：産卵期間および禁漁区域の提案と合意形成のための意見交換会（フォーラム）（連携活動）

5. 活動実施スケジュールおよび活動の詳細

5-1. 実施スケジュール

		実 施
平成 28 年	4月	濠川におけるアユの復活プロジェクト
	5月	淀川大堰および毛馬閘門における天然海産アユの遡上状況の現地察会（連携活動）
	6月	淀川河川レンジャーとして淀川発見講座の実施協力
	7月	親子で楽しむ友釣り体験会：友釣りを通じて夏のアユの生き様を体感する。（木津川中流）
	8月	発電用堰堤（ダム）および魚道の見学会：相楽発電所取水堰の魚道およびその仕組みに関する見学。（南山城村やまなみホールにおけるフォーラムにおいて効果的簡易魚道の提案）（連携活動）
	9月	オトシガワ漁またはスガケ漁の見学および産卵場適地の探索：産卵場適地の条件を見学し、成熟アユの産卵実態について学ぶ（連携活動）。
	10月	濠川（伏見みなと公園）の魚、釣ってみよう飼ってみよう：濠川の淡水魚を釣り方、それらの飼育法を習う。
	11月	淀川三川合流地点および毛馬大橋におけるアユ流下仔魚の採集：アユ仔魚の流下状況の観測および翌年のアユ稚魚の遡上予測に関する学習（連携活動）
	12月	濠川のアユの復活プロジェクトに関する周辺住民による実行計画策定
平成 28 年	1月	淀川における天然海産アユの復活について考えるフォーラム：淀川大堰における春の天然アユの遡上を促進し、秋の産卵場における再生産を確保するための親魚確保、禁漁期間と禁漁区域の設定に関する流域住民の合意形成のための意見交換会（連携活動）
	2月	
	3月	

5-2. 活動の詳細

I. 濠川のアユ復活プロジェクト

(1) 活動目的

本課題は、宇治川派流（濠川下流）には昔から天然アユが生息していたということが知られている。このアユを復活させるために必要な基礎的情報収集と調査活動を行う。基礎的情報の収集は流域住民とともに実施し、濠川にアユを復活させる可能性に関する検討を行う。活動範囲は濠川の住吉堰堤から下流約6kmで、この区間の下見調査を実施する。視察当日は現地調査終了後、担当河川レンジャーは参加者に対し既知情報を提供した上で、具体的計画案を提示・検討を進める。さらに、この計画をさらに推進するため、企画案を策定し「京都市伏見区の活動支援事業」へ応募することに関して参加者の間で検討する。

(2) 連携等

- ① 濠川（宇治川派流）における稚アユの放流効果に関する予備的調査
- ② 京の川の恵みを活かす会：検討会、目視調査
- ③ 伏見楽舎：検討会、目視調査
- ④ 日本釣り振興会：検討会、目視調査、種苗放流、試験調査
- ⑤ 京淀漁協：目視調査、試験捕獲

(3) 参加対象者・定員

参加対象：各回 流域・地域住民、連携市民
参加者数：10名

(4) 実施内容

- ① 濠川における稚アユの放流効果に関する予備的検討会
- ② アユの成長と生残についての目視調査
- ③ 本調査への展開の可能性検討会

(5) 実施日

第1回 濠川下流域におけるアユの復活プロジェクトに関する事前調査 H28年4月xx日
第2回 本プロジェクトの実実施計画の展開に向けた住民検討会 H29年1月xx日

(6) 実施場所

第1回 伏見出張所会議室および濠川の住吉堰堤から三栖閘門まで約6kmの区間
第2回 伏見区役所会議室

(7) 安全対策

濠川における稚アユの放流効果の予備的調査の現地活動において、河川レンジャースタッフがこれに当たる。

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

- ① 担当河川レンジャー：1名
- ② スタッフレンジャー：1名
- ③ 日本釣り振興会
- ④ 京淀漁協

(9) 広報・募集方法

①各回のチラシ作成、配布、②淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信、③ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画に関する資料収集、実施および統括を担当
- ② スタッフ河川レンジャー：参加者の安全な誘導、アクセスの確保、内容の説明補助

II. 淀川大堰および毛馬閘門における天然海産アユの遡上の現地見学会

(1) 活動目的

「淀川の河川環境の保全と図る活動シリーズ」の1番目連携活動で、その内容は「淀川大堰の魚道におけるアユ稚魚の遡上状況の観察と遡上アユの自動計数の仕組みに関する見学」である。本課題は、淀川の天然アユを復活させるための基礎的知見を体得することにある。参加者とともに遡上

する稚アユを観察し、観察終了後、参加者は、淀川の天然アユの本格的復活に向けて具体的な改善法について学ぶとともに意見交換を行う。

(2) 連携等

①連携する河川レンジャー名

伏見官内河川レンジャー：谷口 順彦

木津川管内河川レンジャー：柴垣 治男

京の川の恵みを活かす会：現地案内と魚道の説明

②連携理由

本レンジャー企画は谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら淀川の天然遡上アユの復活をめざして、実践的学習活動を計画・実施する。谷口 R はアユの生物特性に関する専門的知見を、柴垣 R はアユの漁業に関する専門的知見を備えており、両者の専門性の協働により魅力的な実践的企画を創出・実行する。企画の実施に当っては、参加者への呼びかけ、漁協の協力を得るための交渉、当日使用するグッズの準備などにおいては連携レンジャーが分担するなど、総合的に協力して実施に当たる。

③連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口、柴垣

チラシ作成：谷口

参加者募集：谷口、柴垣

漁協およびその他の協力団体との交渉：柴垣

当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ

安全確保：柴垣、谷口、スタッフ

当日の会の進行：柴垣（谷口）

実施内容の説明：谷口、柴垣

現地活動：谷口、柴垣（見学ポイントの案内、見学の要点の説明、今年の遡上動向の説明と過去の遡上との対比、大堰魚道の問題点などの論議）

(3) 参加対象者・定員

参加対象：地域住民、定員：30名

(4) 実施日

H28年5月7日（土曜日）

(5) 実施内容

- 1) 淀川大堰右岸河川敷に集合。
- 2) アユ稚魚の遡上状況を観察。
- 3) 自動計数の仕組みを見学、毛馬閘門における稚魚の蝸集を観察。
- 4) アユ稚魚の遡上成功率の向上について考察

(6) 実施場所

淀川大堰左岸の淀川河川事務所毛馬出張所および右岸河川敷

(7) 安全対策

堰堤橋梁上から観察の場合：転落防止などの対策としてライフジャケットおよびヘルメットを着用する。

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

- ① 担当河川レンジャー2名、②協力スタッフ2名、③見学コースの案内および見学ポイントの説明

(9) 広報・募集方法各回のチラシ作成、配布、

①淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信、②申し込み方法：ファックス間または電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む、③活動における河川レンジャーの活動内容

(10) 河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② 連携河川レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

III. 淀川における天然アユ稚魚の遡上促進に関する試案検討会(フォーラム)

(河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートとを図る活動)

(1) 活動目的

淀川における天然アユ稚魚の遡上量は増加傾向にあるが、日本の他河川での改善傾向には及ばない。淀川水系のアユの自律的生産力増進するために何をなすべきか考え提案し、それらを実施するには“河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートとを図る活動”が重要と思われる。淀川では河口大堰と毛馬水門が天然海産アユ稚魚の遡上を妨げる障壁となっている可能性が示唆されている。本川におけるアユを中心とする淡水魚の往来阻害の問題に関して、河川の流域住民、漁民、学術研究者の参加を得て、総合的意見交換会を実施する。このような意見交換を通じて、淀川大堰まで戻ってきた天然アユを遡上させるため実行可能な具体策の作成を目指す。

(2) 連携等

資料作成：谷口

チラシ作成：谷口、

参加者募集：谷口

漁協・その他の協力団体との交渉：谷口

淀川大堰におけるアユ稚魚の遡上促進のための試案の作成：谷口

アユの魚道の設計上の技術的情報提供：京の川の恵みを活かす会

(3) 参加対象者・定員

検討委員 5 名 + 一般参加 5 名

(4) 実施内容

淀川大堰および毛馬閘門におけるアユ稚魚の遡上状況

構造上の問題点

遡上促進に必要な要因

遡上促進法に関する意見交換と具体案の検討

(5) 実施日

H28 年 6 月 xx 日

(6) 実施場所

淀川管内河川事務所、伏見出張所会議室

(7) 安全対策

活動は会議形式であるため安全対策は不要

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

会議室の設営、資料作成、液晶プロジェクター、スクリーン

(9) 広報・募集方法

①各回のチラシ作成、配布、②淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信

③ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当

IV. 親子で楽しむ友釣り体験会:

(友釣りを通じて河川環境と夏アユの生き様を体感する)

(1) 活動目的

本活動は、親子でアユの友釣りを体験し、アユと川に親しむなかで、川に対する愛着を育むことを目的とする。このような体験会は木津川の中流域(京都府南山城村大河原)にて実施する。親子の参加者の他、漁協関係者、釣りインストラクター、シニア活動家などがこの企画に協力して参加する中で、川とアユに対する愛着と理解をさらに深めることが期待できる。

木津川中流域の漁場(2か所)の専用的利用に関する同意を得るため、木津川漁業協同組合事務所の組合長および参事を表敬訪問する。友釣りの道具類の準備、釣り場の目視による事前調査などの実施。親子友釣り体験会：インストラクターによる友釣りの指導を受け、実釣を通じてアユの生き様を体感する。

(2) 連携等

- ① 日本釣り振興会（公益財団法人）：インストラクターの派遣、友釣り機材の貸与、河川敷のクリーン作戦の指導
 - ② 木津川漁協：漁場の河川敷整備、親子参加者の安全確保要員の派遣
 - ③ 京の川の恵みを活かす会：瀬の中に展開した親子の安全確保に努める。
- (3) 参加対象者・定員
参加対象：友釣りの未経験者、淀川流域住民（親子で参加受付、子供は小学生～高校生、親は年齢不問）
参加者数： 5組、10名
- (4) 実施内容
1) 友釣りポイント（木津川）に集合、2) 友釣り場の河川特性の説明、
3) 仕掛けと装着の説明、4) 鼻カンの装着の練習、5) 実釣、
6) 取り込みの説明と練習、7) 釣魚の保存法を習う、8) 活動終了後の河川敷の清掃を行う。
- (5) 実施日
H28年7月xx日
- (6) 実施場所
木津川中流（京都府相楽郡南山城村）の大河原の潜水橋の上下の瀬、飛鳥路潜水橋の上下の瀬
- (7) 安全対策
友釣りのため入川する参加は全員、ライフジャケットを着用する。
- (8) 協力スタッフ等の人数とその役割
木津川の漁協関係者および京の川の恵みを活かす会のメンバー、河川レンジャースタッフは参加者の安全監視に当たる。
- (9) 広報・募集方法
① 各回のチラシ作成、配布、
② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む
- (10) 活動における河川レンジャーの活動内容
① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
② スタッフレンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

V. 中流域のダム(相楽発電所堰堤)および魚道の視察および検討会 (河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動)

(1) 活動目的

淀川の環境と淡水魚の溯上を阻害する要因に関する情報を収集し、それらに対する効果的対策の工法について提起する。個々の問題の解決のためのカギとなる要因をテーマとして設定し、流域住民、漁民、学術研究者の参加を得て、総合的意見交換会を実施する。中でもアユを中心とする淡水魚の復活に関しては、天然アユの正常な成育の促進を実現できるよう問題の理解を深め、最良の解決にむけて具体案を創出する。

(2) 連携する河川レンジャー名

伏見管内河川レンジャー 谷口 順彦
木津川管内河川レンジャー 柴垣 治男

(3) 連携理由

レンジャー企画「淀川の天然遡上アユの復活をめざして」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら実践活動を計画する。谷口 R はアユの生物特性に関する専門的知見を有し、柴垣 R はアユ漁業を通じて発電用堰堤に設置されている魚道の機能に関して詳しい知識を備えている。本企画を遂行するにあたっては両者の専門性を活かして実践的企画を実行する。企画の実施に当たっては、参加者への呼びかけ、漁協の協力を得るための交渉、当日使用するグッズの準備などにおいては両レンジャーおよびスタッフレンジャーが分担・協力する。

(4) 連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口、柴垣
チラシ作成：谷口

参加者募集：柴垣、谷口
漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣
当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ
安全確保：柴垣、谷口、スタッフ
見学の現地の案内：柴垣、谷口
当日の会の進行：柴垣（谷口）
実施内容の説明：谷口、柴垣、

(5) 連携等

京の川の恵みを活かす会：魚道その仕組みに関する知見提供、簡易魚道の提案
招聘講師：簡易型魚道（寄せ石魚道）の設計に詳しい専門家

(6) 参加対象者・定員

流域住民、内水面漁業関係者、専門家と検討委員として参加要請する。
定員：10名

(7) 実施内容

ダム(堰)および魚道の実物を事前に見学した上で、検討会を実施する。検討会当日は現魚道の仕組みに関する問題点について意見交換し、効果的簡易魚道を提案する。

(8) 実施日

H28年8月xx日（土）

(9) 実施場所

ダム(堰)および魚道の視察および検討会：淀川管内河川事務所伏見出張所

(10) 安全対策

現地で魚道へアクセスするため、ライフジャケットを使用する。

(11) 協力スタッフ等の人数とその役割

簡易魚道の専門家、担当河川レンジャー、連携河川レンジャー、京の川の恵みを活かす会
会員の簡易魚道の設計経験者

(12) 広報・募集方法

- ④ 各回のチラシ作成、配布、
- ⑤ 淀川河川レンジャーホームページの到着情報により発信
- ⑥ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(13) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当、討議資料作成
- ③ 連携河川レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

VI. オトシガワ漁またはスガケ漁の見学および産卵場適地の探索

（産卵場適地の条件を見学し、成熟アユの産卵実態について学ぶ）

(1) 活動目的

本企画は、淀川のアユの産卵場の保全に結び付く実践活動である。アユの産卵場を探索し、産卵場の環境特性を体感するため産卵場候補となる瀬の中に入って瀬の底質や砂利の粒径などの性状について観察し、体感する。また、産卵場付近の瀬に集結を始めている親魚を伝統漁法オトシガワ漁により試験採捕し、標本として保存する。また、現地で解剖し成熟状況を確認する。この活動で得られた知見は、後に、アユ産卵期の禁漁の検討と意見交換会において情報・資料となることが期待される。

(2) 連携する河川レンジャー名

谷口 順彦
柴垣 治男

(3) 連携理由

レンジャー企画「木津川のアユ産卵場の探索とアユ捕獲作戦」は、谷口Rと柴垣Rが連携し、それぞれの専門性を活かして淀川のアユの産卵場の保全に結び付く実践活動を計画する。柴垣Rのアユの漁獲に関する専門的知見はアユの捕獲作戦において活かされ、谷口Rのアユの生理・生態に関する専門的知見はアユの産卵場の探索において活かされる。本企画の実施に当たっては、参加者への呼びかけ、漁協の協力を得るための交渉、当日使用するグッズの準備などにおいては両レンジャー

ーおよびスタッフレンジャーが分担し、総合的に協力して実施に当たる。

(4) 連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口

チラシ作成：谷口、(柴垣)

参加者募集：柴垣、谷口

漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣

当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ

安全確保：柴垣、谷口、スタッフ

当日の会の進行：柴垣(谷口)

実施内容の説明：谷口、柴垣、

現地活動：柴垣：河川内の案内、産卵場の環境観察、アユ漁獲(オトシガワ漁)の実施
谷口：産卵床基盤の観察、現地での解剖所見の説明、アユの標本作成

(5) 参加対象者・定員

一般参加者 15名

(6) 実施内容

木津川のアユ産卵場を数地点選定し、それらを視察し評価する。また、産卵場の候補地において親魚の現存量と成熟状況を推定するためオトシガワ漁による試験採捕を実施する。採捕したアユの一部は現地で解剖し、それらの成熟状態を確認する。また、個体データ測定用として、保存用標本を作成する。

(7) 実施日

H28年9月xx日

(8) 実施場所

産卵場の現地見学は木津川の山城町から加茂町付近の平瀬、数か所。

成熟アユの試験採捕は加茂町銭司において実施する。

(9) 安全対策

河川内へは試験採捕に関わるレンジャーとその補助者がウェットスーツを着用

産卵場の瀬に入る参加者はウエダーを着用する。

スタッフレンジャーは参加者の安全を監視する。

(10) 協力スタッフ等の人数とその役割

協力参加者：オトシガワの補助

スタッフレンジャー：参加者の安全監視

(11) 広報・募集方法

① 各回のチラシ作成、配布、

② 淀川河川レンジャーホームページの到着情報により発信

③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(12) 活動における河川レンジャーの活動内容

担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当

連携河川レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

VII) 濠川(伏見みなと公園域)の魚、釣ってみよう飼ってみよう

(1) 活動目的

本活動は、親子で淡水魚の小魚釣りを体験し、川に親しみ川に対する愛着を育むことを目的とする。この体験会は宇治川派流(濠川)の伏見港公園内の安全な場所にて実施される。これは企画参加者親子、漁協関係者、釣りインストラクター、シニア活動家などの協力を得て実施するもので、参加者全員において川と淡水魚に対する愛着と理解が深められることが期待される。

(2) 連携等

① 日本釣り振興会(公益財団法人)：釣り具の貸与、河川敷のクリーン作戦の指導

② 伏見楽舎メンバー：参加者(親子)の水辺の安全の担当およびインストラクター(参加者の補助)

③ 京の川の恵みを活かす会：参加者の安全確保

(3) 参加対象者・定員

参加対象： 淀川流域住民（親と子で参加）

参加者数： 10 組、20 名

(4) 実施内容

宇治川派流の魚、釣ってみよう飼ってみよう

1) 伏見みなと公園に集合、2) 宇治川派流の魚の説明、3) 小物釣り仕掛けの装着、4) 釣魚の鑑定、5) 循環水槽の設置と管理法の説明、5) 魚の収容と飼育上の注意、6) 表彰式

(5) 実施日

H28 年 10 月 xx 日

(6) 実施場所

京都市伏見区伏見みなと公園

(7) 安全対策

伏見楽舎へ協力依頼

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

担当河川レンジャー（運営）、スタッフ河川レンジャー（釣りの指導、応援）、伏見楽舎メンバー（安全監視）

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布、
- ② 淀川河川レンジャーホームページの最新情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② スタッフレンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

VIII) 木津川におけるアユ仔魚の流下状況の観測

(1) 活動目的

産卵場に着床したアユの受精卵は凡そ 10 日後には孵化して生まれたばかりの仔魚は流下を始める。木津川の中流の産卵場でふ化した仔魚は、11 月上旬から中旬には下流域に出現する。本活動においては淀川三川合流地点において、アユ仔魚をプランクトンネットを用いて採集し、下流への移動の時間、時期、数量に関する状況を観察する。アユ仔魚の流下状況にもとづき、アユの再生産に係る当年の状況判断および翌年の稚魚遡上状況について予測を行う。河川の流域住民、漁業協同組合、学術研究者など関係者の参加を得て、アユの再生産に関わる保全について総合的に考察し、翌年の天然アユ遡上量に関して議論を深める。

(2) 連携について

淀川河川レンジャーおよび京の川の恵みを活かす会の会員が三川合流付近の橋上においてアユ仔魚採集のための共同作業を実施する。

(3) 連携理由

企画の実施に当たって、採集作業に多くの人員が必要となる。このため、淀川河川レンジャー、京の川の恵みを活かす会の関係者、河川漁協の役員、遊漁関係者などの参加を得て、共同作業を実施する。

(4) 連携等

京の川の恵みを活かす会：淀川三川のアユ産卵場に関する協働および情報提供

(5) 参加対象者・定員

主催者：10 名、一般参加 10 名

(6) 実施内容

木津川のアユ仔魚の流下状況にもとづき、当年の産卵、孵化状況および翌年の稚魚遡上に関する予測・検討を行う。

(7) 実施日

H28 年 11 月 xx 日

(8) 実施場所

集合場所：淀川三川合流背割り堤公園前

(7) 協力スタッフ等の人数とその役割

京の川の恵みを活かす会、淀川三川の漁業協同組合、学術研究関係者、流域住民などの淀川の海産アユの溯上に関心のある参加者を募り検討委員として意見を相互交換する。

(8) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所で受け付け

IX. 木津川のアユ産卵場と親魚の保護区の検討会

(親魚と孵化仔魚の保全のための産卵期間中の禁漁期および禁漁区域の検討会)

(1) 活動目的

「木津川のアユ産卵場の親魚保護区の検討会」は、「河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動として位置づけられる。淀川の天然アユの保全においてアユ産卵場の保全と親魚の保護は極めて重要な課題と考えられる。本企画ではアユの生理・生態に関する科学的知見とアユの漁獲に関する経験的知見を活かしてアユの産卵期の捕獲制限の時期と場所を検討することが目的である。このため、企画の実施に当たっては、魚類生態学的知見に詳しい専門家、漁協の役員、遊漁者、産卵場に近隣する地域代表に参加加を呼びかける。当日は連携レンジャー、スタッフレンジャーの協力を得て、事前に関係資料を準備し、配布する。

(2) 連携する河川レンジャー名

谷口 順彦
柴垣 治男

(3) 連携理由

本企画「木津川のアユ産卵場の親魚保護区の検討会」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら検討会を開催し、アユの産卵期の捕獲制限の時期と場所に関する結論を導くことが目的である。また、企画の実施に当たっては、漁協の役員、遊漁者、産卵場に近隣する地域代表に参加を呼びかける。これらの参加を得るための交渉、当日使用資料の準備などにおいて連携レンジャーはスタッフレンジャーの協力を得て、総合的に協力して実施に当たる。

(4) 連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口
チラシ作成・配布：谷口、(柴垣)
参加者募集：柴垣、谷口
漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣
当日の会の進行：柴垣(谷口)
実施内容の説明：谷口、柴垣、
活動の要約の作成：谷口、柴垣

(5) 連携等

京の川の恵みを活かす会、淀川三川の河川漁業協同組合からアユ産卵場およびその保護に関する情報の提供を受ける。

(6) 参加対象者・定員：20名

(7) 実施内容

淀川河川レンジャー事務所の会議室において、設定されたテーマについて順次、意見を述べ、アユの産卵場の場所の特定し、産卵期の特定、産卵期の漁業実態、産卵期間中の禁漁区域などに関する情報交換を行う。また、より有効なアユ親魚の保護策について意見交換し、検討を行う。

(8) 実施日

H29年1月xx日

(3) 実施場所

伏見出張所：淀川三川のアユの産卵期間中の禁漁区域の検討と提案

(7) 安全対策

活動は会議形式であるため安全対策は不要

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

親魚と孵化仔魚の保全のため産卵期間中の禁漁区域の合意形成のための原案検討

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布、
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② 連携レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

平成 28 年度 河川レンジャー年間活動計画

伏見出張所管内河川レンジャー 中村 初太郎

(1) 宇治川・山科川の水質調査 (28 年 4 月から 29 年 1 月の 10 回)

昨年度に 8 名のご協力を得て、宇治川、山科川、濠川、瀬川の 10 カ所で 10 回の水質調査を行いました。(2 月、3 月は未了)

調査の結果を専門家のご意見を付して、広く地域社会に広報する予定ですが、今年度も調査を行い、調査資料の充実を図りたいと考えます。

(2) 小学校への出前授業の開催 (夏休みまでの予定)

昨年度は向島小学校で、宇治川博士になろうと題して、宇治川のヨシ原、歴史と産業、地域の名産など、2 回 4 時限の出前を授業を行いました。

今年度は、総合教育のプールの時間を活用し、水難事故の防止として、京都市消防局の協力を得て、ライフジャケットの使用法を学習して頂く企画です。現時点では 2 校を考えています。

(3) ツバメのねぐら入り観察会 (28 年 8 月 6 日予定)

宇治川の左岸、観月橋の下流 800 メートルに、西日本一のツバメの埒のあることはあまり知られておりません。30 年前頃は 5 万羽とも言われていましたが、近年は環境の変化で半減しています。

このツバメは、餌を求めて早朝に飛び立ち、日没寸前に一斉に帰ってきますが、その様子は言葉に表せない絶景で、見る人に感動を与えます。

1 2 月にヨシを刈り取り、3 月にヨシ焼きを行う事で、害虫を除去し、雑草を燃やし、春の訪れを待つ新芽を促す肥料となっております。

このサイクルが宇治川のヨシ原の環境を護って来たと言えます。

このヨシが全国の文化財の良質の資材になっている事もあまり知られていませんので、ヨシを知って頂く企画として開催したいと考えます。

(4) 水防体験会 (9 月を予定)

「災害は忘れたころにやってくる」と言われています。近年は護岸工事が進み大きな水難事故は発生していませんが、いざという時の為、宇治川に隣接している学区の自主防災会とタイアップして、京都大学防災研究所のご協力を得て、親子で水防体験会を企画しました。

呼びかける予定の学区は、向島、向島南、桃山、桃山南、南浜、等です。

(5) 淀川流域・ヨシ原情報交換会の開催（28年10月を予定）

琵琶湖の近江八幡から瀬田川、宇治川、淀川と淀川水系には、ヨシ原が点在し、文化財の修復や茶園畑のヨシズとしての需要が多く、古くは米より高く売れ、生活の糧になっていた地域があります。

昨今では茶園の覆いは滑車付きの化繊に代わり、ヨシズの使い道がなくなりました。

従って、各地のヨシ原の保全がおろそかになり、環境破壊が進んでいる一方、管理に多額の金がかかり、自然環境が保持できなくなりました。

そこで、ヨシとかかわりのある地域が現況を語り、情報を交換してヨシの活用法を見出す為、専門家のご意見を取り入れられる機会を作るべく企画するものです。